

大規模災害に備え 多摩地区で訓練

多摩地区で11日、大規模災害を想定した訓練が各地で行われた。

八王子市の南多摩病院では、負傷者が大量に搬送されることを想定した「緊急医療救護所」の設営・運営訓練が実施された。救護所では重症度別に患者を分類、必要に応じて対応を決める「トリアー

ジ」が行われ、同病院や八王子市医師会などに加え、近隣住民も患者役で参加した。同市

散田町の田中憲司さん(66)は「災害で自分がけがなどをした場合を想像することは勉強になった」と話した。また日の出町の採石場では1方8000平方

を想定した訓練が実施された。東京消防庁などのヘリコプター計5機のほか、町民ら550人が参加。逃げ遅れた2人に見立てた人形をヘリで救助し、ホースを2分伸ばし地上と空中の両方から消火した。

同庁第九方面の森住敏光本部長は「林野火

災には多くの人と機材が投入される。こうした機会を通じて(連携を)勉強してもらいたい」と隊員に訓示した。

【黒川将光】



緊急医療救護所で患者役をトリアージする医療関係者。八王子市で逃げ遅れた人に見立てた人形を救助する東京消防庁のヘリコプター。日の出町で

